

9 行列式の定義

K を実数全体 \mathbb{R} または複素数全体 \mathbb{C} とする.

例題. f を 2 個の 2 項縦ベクトル $v_1, v_2 \in K^2$ の順序付き組 (v_1, v_2) に対しスカラー $f(v_1, v_2) \in K$ を対応させる関数とする. もし f が次の (1), (2) を満たすならば

$$f(v_1, v_2) = \det(v_1, v_2)f(e_1, e_2)$$

(ただし e_1, e_2 は K^2 の基本ベクトル) が成立することを示せ.

(1) 二重線形性. 任意の $v_1, u_1, v_2, u_2 \in K^2, \lambda \in K$ に対し,

$$(1.1) f(v_1 + u_1, v_2) = f(v_1, v_2) + f(u_1, v_2), f(v_1, v_2 + u_2) = f(v_1, v_2) + f(v_1, u_2),$$

$$(1.2) f(\lambda v_1, v_2) = f(v_1, \lambda v_2) = \lambda f(v_1, v_2).$$

(2) 歪対称性. 任意の $v_1, v_2 \in K^2$ に対し, $f(v_2, v_1) = -f(v_1, v_2)$.

演習 9.1 f を 3 個の 3 項縦ベクトル $v_1, v_2, v_3 \in K^3$ の順序付き組 (v_1, v_2, v_3) に対しスカラー $f(v_1, v_2, v_3) \in K$ を対応させる関数とする. もし f が次の (1), (2) を満たすならば

$$f(v_1, v_2, v_3) = \det(v_1, v_2, v_3)f(e_1, e_2, e_3)$$

(ただし e_1, e_2, e_3 は K^3 の基本ベクトル) が成立することを示せ.

(1) 三重線形性. 任意の $v_1, u_1, v_2, u_2, v_3, u_3 \in K^3, \lambda \in K$ に対し,

$$(1.1) f(v_1 + u_1, v_2, v_3) = f(v_1, v_2, v_3) + f(u_1, v_2, v_3),$$

$$f(v_1, v_2 + u_2, v_3) = f(v_1, v_2, v_3) + f(v_1, u_2, v_3),$$

$$f(v_1, v_2, v_3 + u_3) = f(v_1, v_2, v_3) + f(v_1, v_2, u_3),$$

$$(1.2) f(\lambda v_1, v_2, v_3) = f(v_1, \lambda v_2, v_3) = f(v_1, v_2, \lambda v_3) = \lambda f(v_1, v_2, v_3).$$

(2) 歪対称性. 任意の $v_1, v_2, v_3 \in K^3$ に対し, $f(v_2, v_1, v_3) = f(v_3, v_2, v_1) = f(v_1, v_3, v_2) = -f(v_1, v_2, v_3)$.

[コメント] 教科書の 4.5.1 節を参考にして, 4×4 の行列式やさらに一般の場合についても考えてみてください.

演習 9.2 次の行列式を計算せよ.

$$(1) \begin{vmatrix} 5 & -2 & 1 \\ -3 & 4 & 5 \\ 7 & -1 & 1 \end{vmatrix} \quad (2) \begin{vmatrix} 3 & 1 & -1 & -1 \\ 0 & 1 & 2 & 0 \\ 2 & 2 & 1 & 0 \\ 1 & 3 & -2 & -1 \end{vmatrix}$$